

学校経営の基本方針

一人一人が輝く学校、笑顔あふれる学校

1 学校教育ビジョン 全教職員でモスクワ日本人学校の教育を展望し具体的に構想する

(1) 学校の使命を自覚し学校教育目標達成を目指す

開校 51 年目を迎える 2018 年度は、現地在留邦人や日本国大使館の熱意と努力に支えられながら営々と積み重ねてきた取組を基盤に、モスクワ日本人学校の教育をより確かなものにする年である。学校教育目標「新しい日本の将来をになう児童生徒の育成」を達成するために、「モス日教育」の質を一層高め、レベルアップを図り、ここで学ぶ子どもたち一人一人に豊かな学びを実現させ、確かな学力と豊かな心、健やかな体をはぐくむことが、モスクワ日本人学校に課せられた使命である。

【学校教育目標】

- 豊かな心を持ち、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成
- 自ら学ぶ意欲を持ち、たくましく、個性的な児童・生徒の育成
- 異なる文化を体験することにより、日本の伝統をより深く尊重することのできる児童・生徒の育成



新しい日本の将来をになう児童生徒の育成

【めざす子ども像】

- 意欲をもって学ぶ子（知）
- 仲よく助け合う子（徳）
- 丈夫で元気な子（体）
- モスクワでの生活を豊かにする子（国際理解）

【本年度の重点目標】

- 協力して学び、考えることを楽しむ子（確かな学力の向上）
- 相手のことを考えて行動する子（豊かな心の育成）
- 健康づくりに進んで取り組む子（健康・体力の向上）

(2) 肯定的な子ども観に立つ

子どもは、本来的に主体的で知的好奇心の強い活動的な存在であり、「学びたい」「できるようにりたい」と願う存在である。そういった肯定的な子ども観に立ち、子どもたち一人一人の可能性を拓き自己実現を図ることができることを目指した豊かな学びを実現するために教育課程を編成する。

(3) 志を掲げて進む

使命を果たすためには、「志」を掲げて歩む必要がある。新しい学校文化、新しい風土、新しい校風を創っていくという気概をもって、一つ一つ進めていく志がなければならない。しかし、志をもつということは、単に夢を抱くこととは違う。これから始まる学校教育の全体像をイメージし、目的や方向を定めていかなければならない。その営みには、謙虚さと地に足のついた理想が求められる。志を掲げて歩む職員集団、「チーム・モス日」でありたい。

(4) モスクワ日本人学校でなければならない教育を推進する

目指す学校像「一人一人が輝く学校、笑顔あふれる学校」は、モスクワ日本人学校の全教育活動を貫き、学校教育目標実現に向け取り組む方向を示す指針である。全職員がベクトルをそろえ「モスクワ日本人学校でなければならない教育」の推進に協働体制で取り組んでいく。

(5) 学校の意義を捉え直す

学校は、今を生きる子どもたちにとって、現実の社会との関わりの中で、日々の学校生活を築き上げていく場であるとともに、未来の社会に向けた準備段階としての場でもある。日々の豊かな生活を生み出すことを通して、未来の創造を目指すための学校の在り方を探り新しい学校生活の姿を描いていく。

(6) 育みたい資質・能力を鮮明に描く

子どもたちが生きていくこれからの社会は、混迷の様相を呈し、決して明るい未来とはいえない現実がある。しかし、だからこそ、未来を担う子どもたちに、困難に直面しても人と関わり合いながらたくましく乗り越えていこうとする「未来を拓く確かな力」を育んでいかなければならない。知識基盤社会、グローバル社会と言われる21世紀。想定外の大災害が起きている昨今。自分の考えをしっかりとって自立し、他者と共生してたくましく生きていくための資質・能力の育成がますます重要となってきた。

目指す子ども像や育みたい資質・能力を鮮明に描いて教育課程を編成し、子どもたち一人一人の確かな力となって育まれていくよう有効な教育実践を積み重ねていくことは、未来を生きる子どもたちとの「約束」である。

(7) 社会に開かれた教育課程を編成する

これからの教育課程には、社会の変化に開かれ、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」としての役割が期待されている。その期待に応えるために次の点を踏まえた教育課程を編成する。

- ア 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育をよりよい社会づくりを目指すという理念をもち、教育課程を介してその理念を社会と共有していく。
- イ これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを明確にしていく。
- ウ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる。

2 「モス日教育」の基盤

(1) 危機管理体制の充実による児童生徒の安全確保

不安定な治安状況に対する在外教育施設の安全対策が課題になっている。危機管理意識を常に持ち積極的に情報収集に努め、子どもたちの安全確保に努めなければならない。また、子どもたちの心のケアを適切に行っていく必要がある。日頃から日本国大使館、文部科学省、学校運営委員会などの関係機関との情報共有を的確に行い、より安心安全な環境づくりに努めるとともに、一人一人の子どもと向き合うことを何より大切にした温かい雰囲気づくりに努めていく。

(2) 日本国大使館・学校運営委員会・ジャパンプラブと連携した学校運営

モスクワ日本人学校の50年の歩みは、在留邦人や日本国大使館の熱意と努力に支えられた営みでもある。そのことを心して学校運営に努めていきたい。学校経営方針や学校運営上の重要事項について定期的、臨時または緊急の場合に分かりやすく報告を行うなど、常日頃から連携を密に保つことを心掛ける。

(3) 保護者と連携した教育活動

子どもたちの人間性や社会性を育むには、学校と保護者が課題を共有し、連携して教育活動を進めていくことが欠かせない。そのためにも、年間を見通した広報活動の充実努めていきたい。具体的には、学校が進める社会性育成の活動や子どもたちが地域に出かけていく現地理解活動を計画的に広報していきたい。学校だより等を活用して、子どもたちの活動をリアルタイムで伝え、保護者の意識を高め双方向の連携協力につなげていく。

(4) 学校財務の適切な管理

予算の適正な執行、学校諸経費の的確な会計事務処理は学校運営の基盤である。滞ることのないよう適正に執行し管理していきたい。学校運営委員会と連携を図りながら、教職員で分担する事務が円滑に行われるよう努めていく。

3 育みたい資質・能力 全ての教育活動は、この資質・能力を育むことに集約される

(1) 育みたい資質・能力と内容

育みたい資質・能力	内 容
生涯にわたって学ぶ力	○ 学習意欲 ○ 主体的に課題解決に取り組む力
情報活用力	○ 知識や情報を生かし、考えを論理的に整理する力 ○ 論理的思考力や批判的思考力
コミュニケーション力	○ 他者と積極的に関わる力 ○ 傾聴する力 ○ 対話する力
創造性	○ 多様な他者と協働し、よりよい生活を創っていく態度
自律性	○ めあてに向かって最後までやりぬく力
共生的な態度	○ 周りの人たちと協調し、関係をよりよくしていく態度
郷土を愛する心	○ 日本の文化と伝統への愛着と誇り

(2) 社会の変化に対応する

予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮していくことが重要である。解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である。社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲をもって、蓄積された知識を礎とし、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことができるよう、そのために必要な資質・能力を身に付けていかなければならない。

(3) キャリア教育の視点に立つ

キャリア教育の考え方に立ち、学校教育目標を具現するために、これまでモスクワ日本人学校で大切にしてきた資質・能力と、これからの未来社会で求められる資質・能力の両面から育みたい資質能力を整理した。また、全ての教育活動は、この資質・能力を育むことに集約される。また、この資質・能力を意識した実践を積み重ねることで教育活動の質が変わってくる。これは、キャリア教育の視点でもある。

(4) アクティブ・ラーニングの視点に立つ

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力の3つの柱として次のように整理している。

- ① 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- ② 理解していること・できることをどう使うか
(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

ここから見えてくるのは、他者と協働しながら「正解のない問題」に対応する力や知識・技術を活用しながら新たなものを創り上げていく力である。これまでの問題が解けるだけの力では不十分であり、みんなが納得する解、みんなが最適と思う解を導き出していくような力が求められている。こうした「真の学ぶ力」は、アクティブ・ラーニングの積み重ねを通して育ってくる。

4 資質・能力を育む教育の展開

(1) 確かな学力の向上

【重点目標】 協力して学び、考えることを楽しむ子

① 学習指導（学び合い、高め合う授業づくりの推進）

- 学習基盤としての「聴き合う力」の育成
- 主体的・対話的で深い学びの実現を図る単元構成・学習課題・学習過程の工夫
 - ◆主体的な学び：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び。
 - ◆対話的な学び：子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び。
 - ◆深い学び：習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。

② 総合的な学習の時間（かかわり、考え、表現する学びづくり）

- 育てたい資質・能力を明確にした探究活動の充実
- モスクワの特色を生かした体験活動の充実

③ 職員研修（質の高いコミュニケーションづくり）

- 「学校力」「教師力」の向上を図る授業研究（ワークショップ研修）の充実
- 授業づくり OJT の計画的な推進

(2) 豊かな心の育成

【重点目標】 相手のことを考えて行動する子

① 学級経営（一人一人が生きる学級づくり）

- ルールとリレーションのある学習集団づくりの計画的推進
- 児童生徒が参画する学習集団づくりの計画的推進

② 生徒指導（確かな絆づくり）

- いじめ防止基本方針に基づく全校体制による取組の充実
- どの子ども安心して過ごせる居場所づくりの充実

③ 特別活動（豊かな人間関係づくり）

- 児童生徒の自発性や自主性を生かした「モス日活動」の展開
- 互いを認め合う振り返りの場の設定

(3) 健康・体力の向上

【重点目標】 健康づくりに進んで取り組む子

① 体育指導（楽しい授業づくり）

- 運動の量と質を確保した楽しい体育学習の充実
- 運動特性に基づく学習内容や場づくりの工夫

② 基礎体力づくり（めあてをもった体力づくり）

- 児童生徒の実態に基づく計画的な体力づくりの推進
- 個人記録カードの活用等による継続意識の高揚

③ 健康づくり（よりよい生活習慣づくり）

- 早寝・早起き、メディアコントロールの取組の充実
- 家庭と連携した生活リズムづくりの充実

(4) 各種教育

- ① 道徳教育（心に響く授業づくり）
 - 魅力的な道徳の時間の展開
 - 保護者と連携した道徳教育の推進
- ② 特別支援教育（子どもの教育的ニーズに応えた支援）
 - ユニバーサルデザインに基づく授業づくりの推進
 - 個別の指導計画の作成・活用・評価・改善
- ③ 国際理解教育（グローバルな視点をもった児童生徒の育成）
 - 現地校、同居校との交流活動の推進（相互理解を深めるための感性の育成）
 - 相手意識をもったコミュニケーション能力の育成（グローバル時代の対話力の育成）
 - 異文化理解を深めるロシア語・英語授業の充実
- ④ ICT 教育（情報編集力を高める学習活動）
 - 情報通信技術を活用した個別学習と協働学習の推進
 - 情報モラル教育の推進
- ⑤ 進路指導・キャリア教育（生き方を考える場づくり）
 - 生き方指導としての進路指導の計画的・継続的な実施
 - ジャパンクラブ等と連携した体験活動の推進

(5) 教育課程を見直す視点

- ① カリキュラム・マネジメント（子ども中心の教育課程の確かな実現）
 - 子どもの視点に立った教育課程の編成・実施・評価の実施
 - 教科横断的な視点に立った単元づくりと学習指導の展開

<カリキュラム・マネジメント>

 - ◆各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
 - ◆教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立すること。
 - ◆教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。
- ② ちびっ子会との連携と小・中の連携（円滑な接続と9年間を見通した教育課程）
 - 学校の設置環境（特色）を生かした幼・小・中が連携した教育活動の推進
 - ちびっ子会と連携したスタート・カリキュラムの編成・実施
- ④ 学校評価（R・P・D・C・Aサイクルを大切にされた適切な評価と情報の公開）
 - 学校評価検討委員会の機能発揮
 - 計画的な学校評価の実施と情報公開
 - 保護者アンケートと教職員評価の充実